

日本の大学全般に亘って一般的に言えることではあるが、工学部において特に著しい問題として、女子・女性の割合が非常に少ないことがある。学部生では、それでもまだ女子比率が約 12%となつてはいるが、教員になると、助教、准教授、教授がそれぞれ、7.5%、4.7%、1.5%であり極端に少ない。アメリカでは女性が学長を占める大学の割合が 1986 年から 2006 年までの間に増加し、特に博士課程を有する大学では 4%から 14%と大幅に増加している。

そこで、私たち「ダイバーシティ調査研究 WG」(主査:内海房子日本工学教育協会理事・国立女性教育会館理事長)では、ダイバーシティの現時点での最大の課題は「女性が参加し活躍できる工学部、そして社会の実現である」と考え、「これからの工学部～女性を増やすには何が必要か～」と題してシンポジウムを行うこととした。

「工学部を目指す女子学生を増やし、女性が社会でエンジニアとしてその力を十分発揮する機会を得ることができる」ようにするために、本シンポジウムにおいて工学系高等教育機関として何ができるかに焦点を絞り議論する。日本工学教育協会の会員である全国の工学系大学・学部並びに高専から、一人でも多くの学長・学部長・校長の皆さんにご参加いただき、問題意識の共有を図り、課題解決へ一歩でも近づくことを期待するものである。

これからの工学部

日本工学教育協会 北陸信越工学教育協会 第 61 回年次大会 シンポジウム I

女性を増やすには何が必要か

日時:平成 25 年 8 月 30 日(金)13:00~16:00, 受付開始 12:30(大会 2 日目)

会場:新潟大学五十嵐キャンパス総合教育研究棟 B 棟 3 階 B355 講義室

コーディネータ:内海 房子(日工教副会長・国立女性教育会館理事長)

～基調講演～

日本の高等教育における男女共同参画について
文部科学省 高等教育局長 板東 久美子氏

～パネルディスカッション～

女性技術者のからの提案, 工学部からの提案

石川 恵子氏 トヨタテクニカルディベロップメント(株) 鶴飼 裕之氏 名古屋工業大学副学長

瀧澤 由美子氏 (株)東芝 社会インフラシステム社 谷口 功氏 熊本大学学長

女性技術者や先進的な事例で成果を挙げている教育機関からパネリストとして登壇いただき、工学部がこれから取り組むべき具体的な方策についてフロアと議論を行い、ノウハウを共有する。板東 久美子文部科学省高等教育局長にもコメンテータとしてご参加いただきます。

定員:200名, 本シンポジウムのみ参加は無料(年次大会参加は有料)。日工教HP(<https://www.jsee.or.jp/>)で事前登録推奨。

後援・協賛(予定):内閣府男女共同参画局, 文部科学省, 男女共同参画学協会連絡会, 日本女性技術者フォーラム

公益社団法人日本工学教育協会(日工教)は、工学系高等教育機関(大学や高等専門学校など)や企業研修所における工学教育・技術者教育の研究・発表の場として、61 年の歴史を持つ学術団体です。隔月発刊の「工学教育」誌には、様々な専門分野での優れた教育実践事例が多数掲載され、年次大会と同時に開催される工学教育研究講演会では、教育に関する熱い議論が展開されています。日工教のその他の活動としては、教育士(工学・技術)資格制度の推進、22 の専門学協会と共同して工学教育連合講演会の実施、海外工学教育協会等との提携などがあります。今回のシンポジウムは、事業企画委員会 ダイバーシティ調査研究ワーキンググループが主体となって、工学部のこれからのについてみなさまと一緒に考えたいと企画しました。